



紫紺魂 明治はひとつ前へ



第17回国分寺地域支部定時総会・懇親会は、5月11日(土)、国立駅前の「さくらホール」で開催しました。当日は、会員の皆様と来賓を含め、総勢48名の大勢の皆様にご出席頂きました。

会員総会は、坂庭香子幹事の司会、芦田隼人幹事の議長により、議事が進められ、全ての議案が承認されました。引き続き行われた「懇親会」は、望月啓介監査委員が司会をされ、エキシビションとして、飯田由美さん(昭48・文)による山本周五郎の「日本婦道記」から「髪かざり」の朗読がありました。



福島啓充さんの「乾杯」により、「懇談」に移りましたが、今年は4年振りに食事と共に、お酒も飲めるようになりました。納谷菊夫幹事のより、「抽選会」も行われ、和気あいあいの中、会員の皆様との親睦を深めることが出来ました。

平亮顧問による「閉会の辞」、締め「校歌斉唱」は、徳田隆洋幹事のエール、望月啓介さんの太鼓で盛り上がりました。

今回、ご参加出来なかった皆様におかれましては、来年は足を運んでくださるようお願い申し上げます。

○新会員のご紹介：木村修(昭59・文) 本多



撮影：出瀬恵介

寄稿

輪島市のいま

明治大学大学院講師（前 国分寺市副市長）

内藤 達也（平 18・大学院ガバナンス研究科修了）

私は、45年9か月務めた国分寺市をこの3月退職いたしました。

この間、校友会国分寺支部の皆さんには、公私にわたりご支援ご協力を賜りましたことを改めてお礼申し上げます。

さて、本日は、今年元旦に発生した地震により、大きな被害を受けた能登半島に震災後、輪島市を中心に過日初めて現地に入り、自身で現地を歩くことが出来たので、その模様を紹介させていただきます。

その前に、私と防災、危機管理との関わりについて、簡単に説明させていただきます。私は、国分寺市在職中、市の危機管理監を8年務めさせていただきました。初めに防災行政に関わったのは、昭和63年、安全対策課防災係に配属されたのがきっかけとなりました。その後、平成5年、東京都災害対策部に出向したことで様々な災害対応、危機管理の事案に向き合っていました。東京都の出向から戻り、防災担当から離れた後も「阪神淡路大震災」「中越地震」「東日本大震災」「広島土砂災害」「熊本地震」「熱海伊豆山土石流災害」など多くの現場に都庁災害対策部OB会、あるいはボランティアとして現場に足を運んで参りました。

そのようなことから、今回も早く現地入りして、被害状況を確認したいと思っておりました。ご承知の通り、「能登半島地震」は、今年1月1日16時10分能登半島地下16kmで発生した内陸地殻内地震で、気象庁マグニチュードは7.6、観測された最大震度は、輪島市門前町、羽咋郡志賀町香能で震度7でした。この地震で国内外を含め日本海沿岸の広範囲で津波が観測されたほか、土砂災害、火災、液状化現象などが発生しました。地震による家屋倒壊も多く、災害関連死を含め死者は、290人に上り、現在も3人が行方不明となっています。また、交通網も寸断され、奥能登地域を中心に甚大な被害が発生しました。発災以来、一日も早く行方不明の方の発見、そして日々の生活が取り戻されるよう願っております。また、災害ボランティアとして現地を訪れたいと考えておりました。

ようやく5月22日、奥能登までの一部道路が交通可能となったことを受け、富山県氷見市経由で輪島市に伺うことが出来ました。震災発生から約五か月を経過した今も写真でご覧のとおり、街のあちらこちらで倒壊したままの建物が多く残され、大規模な火災が発生した「朝市通り」でも、火災の後が片付かれることなく、生々しく残されたままとなっており、声も出ませんでした。この地震で「半壊」と「全壊」となった家屋は、およそ2万2千棟と想定されています。特に被害が大きかった輪島市、珠洲市など能登地方の6つの市と町で、住民などから受け付けた解体申請は、現時点で4,364件に上ります。

しかし、この5か月で公費解体が行われたのは、わずか131棟に留まっております。写真のように公道を塞ぐ倒壊建物が多く、新たな地震発生や災害復旧を考えると、早急に処



理する必要となります。しかし、なぜこれほどまで、倒壊建物の撤去が進まないのでしょうか。最大の理由は、公費による家屋解体には、「所有者全員の同意」が必要となるからです。これは、家屋の解体が「私有財産の処分」にあたり、所有者全員の同意を書面で提出することが求められるためです。このことに加えて、時間が経過している理由として、能登地方が少子高齢化に起因する人口減少を迎えており、相続発生の際、名義変更をしていない家屋が多いこと。また、そもそも長い間、空き家となっていたことから、現在の所有者が特定されないなど、地方特有の過疎化問題も加わり、難しくなっている状況です。

なんとか行政が柔軟な対応で一日でも早く「名物朝市」を始め、日々の暮らしが震災前に戻ることを望まずにはられません。

そんな折、6月1日の読売新聞に「所有者全員から解体の同意が必要なことが申請の障害だったが、政府は、5月28日、建物が倒壊や焼失した場合には、所有者全員の同意がなくても自治体判断で公費解体ができると通知した。」との記事を見つけました。

このことで解体が大きく進んでくれることを期待したいと思います。しかし、この地域には宿泊施設が少ないため、現在、全国から派遣されている解体撤去に係る作業員のみなさんの多くが金沢市など遠方から片道2時間近くかけて解体工事に従事されています。

この現状を考えると不安は拭えませんが、まずは大きな障害「全員同意」が取り除かれるようですので、今後の解体撤去作業が順調に進むよう期待したいと思います。

私も改めてこの夏休みには NPO の仲間や学生を連れて、ボランティアに入りたいと思っています。



頑張ろう能登半島！　頑張ろう輪島！



寄稿

～生涯青春～

鈴木 聖仁（昭 63・政経）

昭和 63 年政経学部卒業の鈴木聖仁です。大学卒業と同時にカシオ計算機（株）に入社。本年 6 月 16 日に還暦を迎え、丸 36 年間勤めた同社を 6 月 20 日付で晴れて定年退職しました。しばらくは嘱託で仕事を続けます。カシオでは、26 年間海外営業に携わりました。香港に駐在。また、計 45 か国を出張ベースで営業活動に飛び回りました。その後、電子ピアノを中心とした楽器事業部で電子楽器を企画する仕事に 10 年携わりました。2020 年、子育てが一区切りついた頃、副業として「鈴木商会」を興しました。同じ頃、一人暮らしの母が倒れ、半年間リハビリ病院へ。現在は施設でお世話になっています。毎週末は茅ヶ崎市にある実家に帰宅してもらい、姉妹と私で、交代で介護しながら一緒に過ごしています。子供の頃母から受けた恩を少しでもだけ応える事ができ、喜びを感じています。



さて、時間に追われる日々ではあるものの、自分の時間も充実させたいと考え、この数年趣味に集中し



ています。10 代の頃憧れだったバイクに乗るため、夜、教習所に通い、3 年前に普通自動二輪車の免許を取得しました。そして、高校時代に熱中したエレキギターの演奏を 40 年ぶりに再開。本業に、副業に、母の介護に、そして趣味のバイクツーリングとギター演奏。熱い想いを持って、全てに全力で取り組んでおります。バイクは、職場の仲間を中心に日帰りや泊りがけでツーリングを楽しんでいます。エレキギターの方は、小学生時代の同級生に声掛けし、昨年社会人バンドを結成。各自で練習を重ね、毎月スタジオでバンドの演奏をしています。今年はメンバー全員が還暦になりますので、同窓会で還暦記念演奏をしようと練習にも熱が入っています。決して時間に余裕はございませんが、心には余裕を持って、趣味を通して、友好活動を深め、人生を更に充実させて参ります。



生涯青春！



田植え

明大会田圃処

国分寺地域支部・国立地域支部共催

国立産もち米づくりは、2017年に校友沼崎さんの全面バックアップにより発足、今回で8年目を迎えました。6月15日（土）、国分寺・国立・小平・あきる野地域支部の4地域支部18名の参加で、沼崎校友所有の国立の田圃で田植えを行いました。晴天の下、水がはられた田圃に素足や靴下などをはいて入った。一列に並んで、苗をおぼつかない手で泥の中に1株1株植えつけました。秋には、黄金色の豊かな稲穂になれよと願いながら。10時に始まった「田植え」も終わり、腹も減ってきたところで、昼食は、近くの国立市「城山さとのいえ」に場所を移し、取ることになりました。この昼食会では、「田植え」の世話人の沼尻さんが腕によりをかけて作った総菜が振舞われました。疲れた体に、このプロの味が染みわたり、大感激です。写真とメニューを載せましたので、ご覧ください



2024 6.15 田植え食事会メニュー

- ① 朝食 国立サンバーンの矢川駅前宿園の33にぎり(餅と梅干し)と甘い菓子焼きです
- ② トマトサラダ 湯引き後湯きみを詰めレタス「緑」トマト「赤」ドレッシング「白」と見た目も楽しんでください
- ③ BBQ スベアリアップ スベアリアップ用の豚肉をトマトケチャップ・醤油・いちごジャム・カレー粉・塩・にんにく・しょうがのたれで 焼付け込み焼き上げたもの
- ④ ツナ豆腐ボール 豆腐・ツナ缶・菜の花、青のりを小麦粉と鶏挽肉でつなぎ、ふわっと軽やかに揚げたもの
- ⑤ デザート みたらし餅だんご だんごの正体は黍(こま)によく びわ 餅つきのお宿でお世話になった土方さんの娘になった小紋のびわ、今年の初物です
- ⑥ 総菜



「田植え」後の次の予定は、「稲刈り」が10月14日（月）、「収穫祭」が12月15日（日）を予定しています。収穫祭では、5種のつきたて餅（あんこ・きな粉・ずんだ・大根おろし・納豆）+山形芋煮を堪能できます。皆様のご参加をお待ちしております。



地域支部だより～国分寺地域支部(ご案内)

多摩支部会報第61号にも掲載

国分寺地域支部主催

2024年 10月5日(土)

第15回歴史探訪

多摩支部地域間交流プロジェクト企画

多摩地区の歴史に触れあうウォーキング、今年もスタートします。皆様をご案内するのは、国分寺地域支部副支部長で学芸員の小林信夫(昭49・文)です。



2012年から14回にわたる「歴史探訪」を自らの足で調査・企画し、多摩の歴史の歩みの現場をウォーキングをもって、皆様を紹介してきました。

今回の「歴史探訪」は、清瀬市で「清戸～下宿～柳瀬川～中里」ウォーキングです。



今回のウォーキングのコースを少しご紹介いたします。



- ① 中清戸地域の日枝神社～清戸という地名の由来となった「ひいらぎ伝説」が伝わる木が境内にある。志木街道に面し、樹齢400年を超える杉の大木などの木立に囲まれる。左側に水天宮があり、安産の神様として近隣からの参詣が盛ん。



- ② 柳瀬川にかかる城前橋を渡り「滝の城跡」へ本丸跡から清瀬市域が一望。この城は狭山丘陵の急崖上に築かれた戦国時代の平山城で北条氏照の持城と考えられ、滝山城の支城と言われている。(埼玉県指定史跡)



- ③ 下宿八幡神社～この下宿の「ふせぎ」行事(東京都指定無形民俗文化財)旧清戸下宿村の住民が毎年5月1日に藁で作った大小の蛇を旧村境に取り付け疫、病や悪霊が村に侵入しないように祈願する行事で、江戸時代の終り頃から行われている



- ④ 中里の富士塚(東京都指定有形民俗文化財)享保18年(1733年)に清瀬に富士講が伝わる。文政8年(1825年)に塚を再築し、明治時代の初めに2m程嵩上げされ、高さ9m程となる。今日でも富士登山や火の花祭りなどの講行事が継続されている。

開催概要：開催日：2024年10月5日(土)、集合：午前8時半・西武池袋線清瀬駅北口バス乗り場付近、解散：午後1時頃・西武池袋線清瀬駅北口、終了後駅近くで懇親会(自由参加)
定員：20名(家族・友人・知人大歓迎)、費用：500円(当日集めます)
申し込み先：国分寺地域支部幹事長 佐々木一郎(昭44・商)
042(324)9250, 090(4825)0530まで
締切り：9月30日(お早めにお申し込みください)

明治大学校友会特別講演会

(国立・国分寺・小平・立川・多摩市・日野・府中地域支部共催)

日本初女性弁護士三淵嘉子と女性教育の歴史に迫る (仮)



三淵嘉子

NHK 連続テレビ小説「虎に翼」の主人公のモデルである三淵嘉子さんは、日本初の女性弁護士、初の女性判事、家庭裁判所長。そして、家庭裁判所創設にも関わった明治大学卒業生です。明治大学は、いち早く法学を志す女性に門戸を開くため、1929年に専門部の一部門として「女子部」を設置、1931年には女子部の卒業生に、明治大学が設置する学部への入学を認めました。その結果女子部と法学部で学んだ女子学生の中から、三淵嘉子など3人の日本初の女性弁護士が誕生しました。このような女性法曹養成機関のパイオニアである明治大学の教育等について、村上一博 明治大学法学部教授にご講演いただきます。

○日時 2024年9月1日(日) 14時～15時30分(開場:13時30分)

○会場 国立市商業協同組合ビル2階「さくらホール」

国立市東1-4-6 (IR中央線「国立駅」徒歩3分)

(国立市商業協同組合ビルの1階入口には、エレベーターがあり、車椅子でもご来場いただけます。)

○講師 明治大学大学史料センター所長 村上一博 法学部教授

(NHK連続テレビ小説「虎に翼」の法律考証を担当)



○入場料 無料 (申し込み順)

○申し込み期日 7月31日(水)

○申し込み先 国分寺地域支部の皆様は、幹事長 佐々木一郎まで (TEL 090-4825-0530)